

# レコード軽術

No.46

2010

ムノーバト・ダヴァジャルガル

Munobato Dvaajargal



ショパン生誕  
200年

謎に寄す 雨出白夫

# 音楽ホール、自由席から席を外すときはご用心

欲しいものは自分の物と思っている人たちがいます



プログラムや演奏会のチラシを置く  
だけではダメです。毅然と自己主張  
するには欠かせないグッズ登場。

有限公司

ジャンジャン (姜姜)

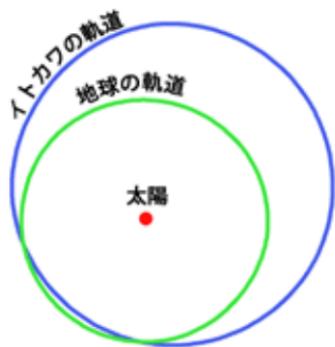


中国製 105 円

# 組曲「惑星」に「イトカワ」を追加 (ホルスト作曲)



## 作品公募



### 速報!

「はやぶさ」が持ち帰った  
サンプルからレアアース発見

ディスクの売り上げは「イトカワ」を日本の準天頂衛星に軌道変更する技術の開発に使われます



# 謎に寄す

雨出 白夫



ジョルジュ・サンドは殺人者？

ワルシャワの聖十字架教会に持ち帰られたという事実が思いがけない事件の暴露につながったそうだ。

彼は私宛のメールで「これは『レコ軽』始まって以来のおどろおどろしい事件になりそうだ」と様子を伝えてきた。よく知られているように、ジョルジュ・サンドは病弱なシヨパンを支え、多くの傑作を生む精神的支えとなった作家である。しかし、それは七、八年の間に過ぎず、愛の破局のあと、シヨパンは魂が抜けたような三年間を過ごした後39歳で没する。

最後の三年間に浮かび上がってきた女性がデルフィーヌ・ポトツカ伯爵夫人でサンドよりずっと美人であったという。彼は彼女とシヨパンとの間に交わされた手紙を精

今年シヨパン生誕二〇〇周年。世界各地でいろいろなイベントが催されている。シヨパンの生まれ故郷のポーランドの首都ワルシャワの音大で教えている友人の前田検辞からびつくりするようなメールがやってきた。何しろ、シヨパンは恋人ジョルジュ・サンドに殺されたというのだ。心臓のみが

査、大胆な性描写からとてもシヨパンが書いたものとは思えないと偽造の疑いを持たれたものを含めすべてシヨパンにより書かれたと断定、二人が友人を超えた関係であったことを裏付けた。

さらに、彼の調査はサンドが別のペンネームを使っておびただしい数の怪奇小説を書いていたことを突き止め、サンドが実は猟奇趣味があったと断定する。

前田検辞による結論はこうだ。破局を迎えたといえどもなおもシヨパンに未練があったサンドがシヨパンを訪れるとそこに一緒にいたのはポトツカ。逆上したサンドとシヨパンはもみ合いになるがすでに体力を衰弱していたシヨパンは転倒しピアノの角に頭をぶつけて死亡する。別れても好き

だったシヨパンが死んでしまうとは思ってもよらぬ悲しみであり錯乱したサンドに猟奇趣味が沸いてきて心臓をくりぬいて逃走、後日シヨパンの姉に渡されるまで密かに持っていたというのだ。

前田検辞の説は大きな反響を呼び、サンド愛好家から裁判が起こされる結果になった。ところが、公判において彼の説はすべて彼がねつ造したストーリーであり、サンドにかけられた疑惑は無に帰すことになった。音楽評論の威信がかかった事件であった。



このほど新永田町フィルの常任指揮者に就任した管鳴人の初ディスクである。有名交響曲三曲が入った徳用ディスクかと思いきや、始めの二曲は第一楽章のみ、最後のシューベルトの「未完成」はもともと二楽章しかないので、収録時間は多



■新世界・幻想・未完成

管鳴人指揮 新永田町  
フィル

くはない。ドヴォルザークの「新世界」は前任の鳩豆由起夫が指揮し、全曲を録音する予定だったが、彼の辞任によって宙に浮いてしまった曲。せっかくだからと管鳴人が引き継いだものの、解釈が前任者と微妙に異なるため満足な演奏にな

らず、やむなく第一楽章のみの収録になった。

どの曲もそうだが、出だしはすこぶる好調。たとえば「新世界」の序奏部は初めて聴く曲のように新鮮な響きで文字通り新しい世界を予感させる。ところが、これからどう展開するのだろうかという期待を持って聴くうち腰砕けになっていく。どの曲も第二主題が奏でられる頃からおかしくなる。曲想を引き継ぐというより対抗して雰囲気を変えていくようなふうに入ってくる。ある意図を持ったグループがいるようだ。展開部に入ればアンサンブルを保つことに大わらわで冒頭に感じた新鮮さなどまったく失われ、混乱のうちには終わる。これは指揮者のせいか、オ

ケのせいか。まとまろうという意識の薄い集団であっても指導者によっては思わぬ美点を引き出すものだが、このオケの代々の指揮者にはまとめる力もない。これは根源的病的状態とさえ言いたい。

やりかけたら最後までやる、言うのはたやすい。目標達成の前にはいろいろな困難が伴うのは当たり前で、指導者はそれらを想定の上で粘り強く自身の世界の実現のために努力せねばならない。いろいろな失敗を重ねていくうちにオケも指揮者も力を付けていくのだといえども、それを黙って見ていられる時間は多くない。提示された「新世界」は「幻想」なのか「未完成」なのか、このディスクのタイトルを見ながらつくづく思った。

中国経由で入手した北朝鮮のディスクである。かの国では音楽家の家系として知らない人がいないほど有名であるというドン一族による演奏である。演奏する曲はバッハとその一族の曲ばかり。つまり、ドン一族はバッハに比肩する優秀な



■バッハ 「音楽の捧げもの」ほか

ドン・ジョンイル (cemb)

ドン・ジョンナム (vn)

ドン・ジョンウン (fl) 他

家系であることをアピールしているディスクである。ドン・ジョンイルは二回結婚し、ジョンナムとジョンウンは異母兄弟。それをJ・Sバッハの母親の違う二人の息子（カール・ファイリップ・エマヌエルとヨハン・クリスチャン）に対応さ

せたい意図が曲の選択から推測できる。もちろん、当のバツハ一族には遠く及ばない。

解説では彼らがいかに抜きん出た才能を持つていたかをさまざまな業績と共に紹介されている。中でも今回初めてディスクにデビューという27歳のジョンウンについてはかなりのスペースがさかかっている。

彼が生まれたとき二重の虹がかかったという「神話」は父親譲りだし、二歳の時子守歌を一度聴いただけで復唱したとか、生来の才能の持ち主であることを裏付けようとする数々のエピソードが紹介されている。四歳の時初めてオーケストラを聴きに行き、会場で彼が大声を出し

たら演奏が止み、調べたらその寸前にミスがあったとか、食べこぼした米粒の列が楽譜になっていたとか、はては五歳の時就寝時に「運命交響曲」を聴いて感動の余り失禁した等々。

かくなる解説付きだから、ディスクに収められている演奏の真偽は議論の対象にすらならない。音質もよくない。中には針音が聞こえるものもあり、何十年も前のだれかの演奏をコピーしたことがわかる。

この種のもののはかの国の一般の人すらまともに信じていないそうさ。そう割り切ればこのディスクはやがて世界史のページを語る貴重な一枚になること請け合いだ。永久保存盤。

日本人より日本人らしいと評され、不動の人気を得ているモンゴル出身のテナー歌手ダヴァジャルガルのアルバムである。日本で親しまれている歌曲が30曲収められ、およそ半分が山田耕筰や中田喜直ら日本人の作曲による歌、残りがア



■心のふるさとベスト30

ダヴァジャルガル (T)

イルランド民謡などに日本語の歌詞を付けて古くから歌われている作品で構成されている。いずれも親しみやすい曲ばかりだ。

ダヴァジャルガルは音楽の道に進むため15歳から日本に住み、音楽を中心に勉

強した。デビュー間もなくイタリアオペラで数々のタイトルロールに抜擢され、一躍有名になった。しかしその後ソロ活動に軸足を置き、日本歌曲を主要なレパートリーとし注目を集めている。

彼は15歳から日本に住んでいただけあつて発音は正確できれい。歌詞の読みも深く、日本の伝統や自然のもたらす美しさを豊かな叙情で歌い上げている。聴き慣れた「赤とんぼ」での素朴な表現は心を打つ。都会で育った若い人たちもこれを聴いてはっとする一瞬があることだろう。私たちが忘れていた日本の美を外国人の彼から教わるとは、襟を正して聴かねばならない。

アルバムの最後はスコットランド民謡

の「故郷の空」。これも日本で古くから日本語の歌詞を付けて歌われてきた歌だが、ここでは馬頭琴によるオブリガートが付く。そうだ、彼が歌うのはモンゴルの空なのだ。何千キロも離れた日本で成功し喝采を浴びながらも、歌うのは日本人か西洋人が作った曲で言葉は日本語。彼は「故郷の空」に彼の本当の故郷を万感の思いを込めて歌いたかつたに違いない。

彼は今後日本に帰化するかも知れないし、帰化と共にンゴルとの縁も薄くなつていくかも知れない。しかし、遠く離れた故郷を思う気持ちは消えることはなからう。そんなとき、彼はきつとこのアルバムを聴き直すことだろう。人間だれでも持つ郷愁の想いを凝縮した一枚。

# 戻ってきた「12 インチのギャラリー」

レコード・プレーヤ型の携帯音楽プレーヤ

 富士音玉 (株)



LP から CD の時代になり、多くの名ジャケットが姿を消しました。もう一度それらを手に取りながら音楽を聴きましょう。タッチパネルで操作は簡単。アンプをつなげばアナログ派もびっくりの高音質で往年の名演奏が楽しめます。

新譜も続々



日本航空 トウワイライト・コンサート  
團伊玖磨作曲 歌劇「夕鶴」



ご来場の皆様の中  
から抽選で機  
体を使用して  
いたカーテンや  
乗務員の制服な  
どをリサイクル  
して作った反  
物を差し上げ  
ます。



# マーラー生誕 150 周年



「復活」のディスクの売り上げは国家・信条の如何にかかわらず再起を志す人たちの支援に充てられます。

マーラー復活交響曲専門

ギルバート・キャプラン財団

## 編集後記

例年のことですが、今年も残暑の終わりと共にいろいろな事件が目白押し。今号はうまく盛り込めた方だと思っておりますが、いかがでしょうか。ただ、LPとか「鶴丸マーク」のネタは古い？

バックナンバーのハイライト、真面目なエッセイなどを  
[http://members2.jcom.home.ne.jp/s\\_yanagawa/](http://members2.jcom.home.ne.jp/s_yanagawa/)  
で見ることができます。

レコード軽術 '10年秋号（通巻第46号）

2010.10.14 第1刷発行

編集発行人 柳川誠介  
〒195-0054 町田市三輪町539-119  
TEL&FAX (044) 989-8510  
s\_yanagawa@jcom.home.ne.jp

印刷・製本 家内工業

